常磐文藝

雄野勇詩集『顔と樹』を讀みて　（一）

木川田　信

私は此の詩集を讀んで新鮮で心強いタッチによろこびを感じた。きたんなく言へば跋文山林君の所謂、多面體の收獲とは考へられぬこれ即ち人生模索時代の六面八ヒの表現であると信じます。その力であるその多面に渡つて流れる朗かな力がこの詩集の力點である。此の力の進展性を觀取し得るは歡びである。

『秋とトンボ』の詩は僕の好みであり、懷しいものである。だが此は作者の本來の流れではないと思はれる此の傾向はのびがないと思ふ、又それ自身望ましくないと思ふ。

『山の詩』はたしかに好いこれこそもつともこれは作者の生命に十分溶けこむ格好の世界ではあるが――作者の進むべき世界である。だがこれは土台だ。これは次の詩集に展開さるべき詩の土台といふのは不都合だがこれはしつかりしてゐて第一朗かである。力があるこれらが此後の詩の方面に望ましい必然のものであらう。將來を約束さるべき傾向である。

素晴しい好評!!
婦人世界特選（圖案ハ全國一流ノ大家）
壹萬五千圓大懸賞付（空クヂナシ）
足利本銘仙近代調銘仙大賣出し
婦女界推奬（名作カラ暗示ヲ得タ）
大懸賞々品付空クヂナシ
八王子高級文藝銘仙大賣出し
特長一、何レモ最高級ノ糸最高級ノ染料　生地ハシナヤカデ非常ニ丈夫デス
一、藝術味溢レル柄行揃ヒニテ秋流行ノ先驅ヲナス逸品デス
一、柄ガ良ク、巾ハ充分デ、丈ガ長ク、而シテ廉價ナ上ニ興味深ク大懸賞景品付デス
平町鍛冶町
吉田屋呉服店
電話壹貳壹番
詳細ハ店内並ニ婦女界婦人世界十月號ニ發表シテ御座イマス

正札堂
平町停車場通り

カキ貝御料理
十六日ヨリ
カキフライ
カキライス
カキなべ
カキ
松島名産
洋式宴會仕出し
平田町
一の井
電話一六七番

冬の學生洋服
極上小倉學生服
一二年生用……一、七〇錢
二三年生用……一、八〇錢
三四年生用……一、九〇錢
四五年生用……二、〇〇錢
五六年生用……二、二〇錢
高等科生用……三、〇〇錢
中學生用……三、三〇錢
買ひよき店
毛利
（三五三電）五丁目

セメント
壁用材料
コールタール
ペンキ塗料
板ガラス
磐城セメント株式會社
代理店
西村屋藥舗
平町二丁目（電三）

内科、小兒科、花柳病科
藤沼醫院
入院需應
平町紺屋町
電話圓平五〇七番

御存じですか？
驛前新道通りの
ダイヤ堂
時計眼鏡販賣修繕
修繕入念迅速
鈴木時計店を
呼出電話八〇五番

外科
專門
光線科
入院應需
上田外科醫院
平町南町
電話一二九番

（一）　常磐毎日新聞（第一千七百二十三號）　第三種郵便物認可（大正十二年十一月八日）

常磐毎日新聞

日刊
發行兼編輯人　印刷人　川崎文治
本社ト同番地（電話六三〇番）
印刷所　常磐毎日印刷所

定價　一部金貳錢　一ヶ月拾錢
廣告料　五號十二字詰一行　五十錢
休刊日　日曜大祭日　祝日ノ翌日
福島縣石城郡平町長橋町三五
發行所　常磐毎日新聞社
電話六三〇番

十月廿一日夕刊

冬の學生服
是非冬服もなかやでコレならと自信を持てお奬め出來る　生地裁縫共に申分ない黒小倉服です

小學生用（長ヅボン付）

1號	七　八	歳用	1圓80錢
2號	八　九	歳用	2圓00錢
3號	九　十	歳用	2圓20錢
4號	十一十二	歳用	2圓40錢
5號	十二十三	歳用	2圓60錢
中學用生			
6號	一　二	年生位	4圓20錢
7號	二　三	年生位	4圓40錢
8號	三　四	年生位	4圓60錢
9號	四　五	年生位	4圓80錢

各學校制定ボタンは15錢高
中學外套も十月中旬より賣出します
なかや洋服店
平二丁目電二〇三

頭痛に即効藥
荒川のノーシン
特約店
大平屋藥店
電話六四二番

心地よき秋が訪れました
秋向着尺
モスリンと
帶側が澤山
入りました
ゼヒ當店へ…
平二
亀田屋
電五七

確ナ体温器
寒暖計
関大藥局
電四〇番

愈よ競賣處分に
滯納約五千七百圓

平町役場では昭和三年度後期分戶數割二千五百三圓四十三錢家屋税三百二十四圓四十四錢授業料四百九十圓二錢雜種税その他一千八百八十五圓九錢總計五千六百九十四圓七十四錢延人員八百人の納税が今以て完納の域に至らず當局は大馬力をかけこれが整理に努めたが何と言つても納めず結局右滯納者に對し一千四百圓の土地と家屋その他家具等一千點を差押へいよ〳〵二十九日午前十一時より同町役場内に差押へ物件の競賣をなすことゝなつた

◇　◇

民政黨内閣の手で
實現は絶望
商港問題で悲憤した
小名濱町民觀念

小名濱商港は着工と同時に濱口内閣の緊縮方針に依り事業中止を命ぜられたのを地方民が

決死的運動を續け

た結果人件費をもつて漸く名目だけにもせよ事業を繼續する事になつたのを明年度から既定計畫に依り六十餘萬圓の豫算を計上されるものと豫測し曩に町長町會議員その他有志が上京して既定計畫の遂行運動をなしたが今回新に編成された内務省の豫算港灣改良費に小名濱商港

工事費は

八割繰延ることに決定してある旨が傳へられたので地方民は今更の如く驚き十萬圓内外の豫算を明年度に計上されたので商港の實現はいつの事になるかわからないので同町では再び決死的の運動をなす事となり近く有志が上京關係各省にそれ〴〵

陳情をなす

由であるが明年度からはと心待ちしてゐた地方民は事業費の八割繰延を傳へ聞き全く呆然としてゐたるが民政黨内閣には全然望む事が不可能であるからと觀念し運動等はせないらしい

リヤカーで
ゾウ品を運搬
二人犯人捕る

石城郡湯本町字三函地内を十九日午後十一時頃リヤカーにコイル銅線を滿載してゆく怪しい二人の青年あるを平署員が不審に思ひ本署に連行取調べると石城郡湯本町字吹矢四二宮城縣名取郡館越村字堀内末吉二男運炭夫菊地利雄(一七)假名と同町字三函三十六茨城縣新治郡安食村字樫ヶ崎惣太郎長男佐藤正(二〇)假名と稱し同夜同町三函九九鮫岡又男方からリヤカー價格十五圓を窃取しその足で磐城炭倉庫内からコイル八十圓分を窃取し處分に行く途中捕へられたものであるが餘罪多數に上る見込みで取調中

◇　◇

進退極まり
犯人自殺を企つ
新舞子の海に飛び込む
四倉署の大手柄

新潟縣刈羽郡高柳村字岡田生れ當時住所不定無職前科窃盗二犯自稱柳幸一事牧野三郎(三四)は本月七日東京巣鴨刑務所を出て其の足にて千葉、茨城各地方を荒し二十日午後四時頃本郡草野村下神谷地内に入り込み來るを四倉署の探知する處となり四倉署は直ちに署員の非常召集を行ない捜査の結果犯人は非常線の嚴重なるを知り赤沼海岸を横切りたるも逃げ場を失つた爲め新舞子浦の海中に飛込み自殺を企てたるを草野村駐在根本巡査が飛込み右犯人を逮捕し取調中であるが餘罪多く東京、千葉、茨城各警察署に照介中である

赤井納税表彰

石城郡赤井村にては納税組合が十あるが成績が極めて良好なので平税務署では石川署長臨席の上同村小學校に於て十八日午前十時これが表彰式を擧げ表彰したなほ同税務署では來年度から毎年四月の税務主任會議の際納税成績のよい村及び收入役を表彰すべく準備中

木兎莊の
短歌會
詠草數篇

既報平町詩南社主催短歌會は去る十九日午後五時より田町高久病院木兎莊にて開かれ參集者十數名あり賑ひを見せたが當夜の傑作として擧ぐべきは左記の如くであると

課題　木兎

△ねもごろに見ねば歌をしよみ得ざる木兎はおかしきものにこそあれ(松村清)
△木洞ぬちに晝はまさしくもの思ふ木兎に幼き親しさおぼゆ(同)
△山の端の我が蹤か家も宵來ればみゝづくの聲淋しく聞こゆ(木野もと子)
△面のみか鼠を食ふ性も似て大祖父同じき木兎と猫かも(高久晩霞)
△さ夜ふけてあたり靜けき夜の森に叫ぶかと聞く木兎の聲(佐々木顯)
△晝いねてやみ夜の森に時めける木兎のみぞ諸島なやむも(同〃)
△ふかき夜の梢に星のきらめきてまどほく鳴ける木兎の聲さむし(佐藤義家)
△木兎鳴けば聲も立て得ず妹は弟と急ぎ床にもぐりし(宮田青波)

課題　『柿』

△吐く息の白々目だつ朝冷えやなりとしき柿眺てゆくも(松村清)
△時化過てやうやう照りは定りぬ落柿匂ふ秋深みつつ
△はろはろと着きにし柿は椽の板に秋の色深く轉び出づるも(高久晩霞)
△熟れ柿の夕日に映ゆるをなかなかに淋くは見つ籠の二軒家
△緣先に所在なければと婆さまは手元危く柿をむきをり(木田忠)
△小包の箱を開けばなつかしや國の父より送れる甘柿(佐々木顯)
△豆の葉は早霜に枯れて吹く風に飛び舞ふ邊りに柿なれるなり(佐藤義家)
△柿一つ眞赤になりて殘り居る田舍淋しき夕ぐれの色(木野もと子)
△群れ鳥とび立つあたり柿の實のほの赤き見ゆ秋の朝たに
△老柿の木垂れし枝に實の熟れてたわむを子等は飛び付むとす(佐藤政美)
△秋は來しと思ふばかりに柿の實の赤く熟れ行く頃とはなりぬ
△柿赤く色づく頃の朝な朝な瀬戸に下り立つうれしき心(武田曉美)
△しぶ柿の皮をむきつつ柿しぶの染みたる指をみつむるこゝろ(堀川八重子)
△柿實る秋ともなれば柿の木の根にうづくまり文殼を燒く

明日の
天氣豫報

晴　南西の風

刑務所破り
鄕里に立廻るか
平及び四倉の兩警察署が
刑事を派して警戒

福島刑務署を破獄した犯人前科三犯若松喜市は其後嚴重なる警戒線を脱れ行衛を晦まし茨城縣に居る

情婦のもとに逃走

したのではあるまいかとの噂もあるが喜市は石城郡大浦村大字狐塚の生れで本年三月中茨城縣方面に於て窃盗を働き平町に來た處を平署の手に逮捕され福島刑務所に收容されたものであり顔を知られてゐる鄕里には

よもや立寄る

事はあるまいと警察當局で氣をゆるしてゐるものと豫想し大膽に入込んで來るのではないかと同人の裏をかき見事取押へんものと平署を始め四倉署では同人の現れるのを待ちかまへて警戒をなしてゐるが同人は極めて平町地方の

地理に通して居

り從來も石城郡と茨城縣を股にかけて荒し廻つてゐたので嚴重なる警戒を續けてゐる

平署管内
消防組頭會議
秋季檢閲其他

平警察署管内消防組頭會は廿四日午前十時同署にて開會、秋季檢閲の件其他を協議する由

ケチ男が
泥醉暴行
懷中に大金を持參しながら

石城郡夏井村大字上大越酒商鈴木武雄(三一)は昨夜南町飲食店二葉屋に登樓酌婦相手に十三圓餘の遊興を爲したに拘らず二圓の金を投げ出した儘戸外に飛び出で、今度は通行人に喧嘩を吹つ掛けた爲め平署に一夜檢束されたが懷中には四百五十八圓の現金を持つて居た由にて今朝鮫岡警部補に散々油をしぼられ平あやまりにあやまつて引下つたと

大和田醫院落成

平町南町大和田耳鼻咽喉科醫院では院務の繁雜につれ狹隘を感じ昨年夏より醫院を新築工事中のところ竣工した由二十日午後五時より落成披露の寥宴を同氏宅に張つた

縊首体の
身元判る
矢張病苦悲觀

既報十七日石城郡磐崎村山林にブラ下つて居た縊首体は茨城縣西茨城郡北川村赤津庄八(三八)と判明したが病氣を苦にしての自殺であると

看護婦派出の求めに應ず
平町南町
平看護婦會
電話三〇七番